

「第3回河南町地域公共交通検討会議」 会議録（議事要旨）

- 日 時 / 平成26年1月16日(木) 午後1時30分～午後3時45分
- 場 所 / 河南町役場3階 301・302会議室
- 出席者 / 委員9名／欠席委員3名の代理者出席3名／事務局8名（うち記録2名）
傍聴者9名／NPO地域デザイン研究会2名
- 配布資料
 - ・ 議事次第
 - ・ 委員名簿
 - ・ 第2回会議録（議事要旨）
 - ・ 資料-1：先進事例
 - ・ 資料-2：地域公共交通の基本骨格の考え方等
 - ・ 「ひと・交通・まちづくり」ニュース第2号
- 報告事項
 - (1) 先進事例について（資料-1）
 - (2) 地域交通に関する取り組みについて
 - (3) 地域公共交通の基本骨格の考え方等について（資料-2）
- 協議事項
 - 地域公共交通体系の基本方針と基本骨格の考え方について
- 議事要旨

【先進事例（兵庫県豊岡市）について】

・ 豊岡市では、最低1便あたり1人利用されているか、この月平均を割ると路線は止めるという前提が、地域で話し合われ決められた。バスが無くなると困るから使わないという気持ちが地域にある。

■システム導入費用について

- ・ デマンドバスのシステム導入時に、イニシャルコスト200万円が必要とあるが、具体的にはどういう経費か。
→ 予約システム一式の経費（パソコン、予約システムのソフト代等）である。

【地域交通に関する取り組みについて】

- ・ 住民が自分たちのバスだという意識、『マイバス意識』といった意識付けが必要である。
- ・ バスの利用条件について、「まずは使わない理由を分析しましょう」ということがあるが、これが結構難しい。つまり今走っているバスが住民の生活タイミングに合っていないので使わないということなので、それを合わす努力をする必要がある。

【地域公共交通体系の基本方針と基本骨格の考え方について】

■地域公共交通体系の段階計画のイメージ（案）について

- ・ 幹線・支線・デマンド型の3つ以外のパターンとしては、スクールバス・病院の送迎バス等があるが、傾向としては専門的なバスが無くなる状況にあり、それをコミュニテ

イバスが補う現実を考えると、バスのパターンとしてはこの3つになる。

- ・交通問題はスクラップ&ビルドという考え方を取るべきである。最初から全部良いものを作ろうと思っても、絶対無理なので、ある一定の形を作って、何回も何回も繰り返しながら変えていく、良いものに変えていくという形を取らないとダメである。検討会議も継続して、人が代わっても、続いていくようなシステムにしておくべきである。
- ・今できる「やまなみバスの再編」を考えることも重要である。また、10年後20年後を考えていくことも重要である。まちのビジョンとして、鉄道整備という長期的なことも考えていくこともこの会議には必要なのではないか。
 - あまり先の事を見据えては、現状の課題を待ってられないという面もあり、3年、5年先ぐらいの社会構造を考えて、河南町がどうなっているのかということに分けて方策を検討したらどうか。
- ・町の活性化といえば、「人が行き来する」、「出入りする」、その歩き回る動き回ることが町の活性化だと聞いた。それから言えば、この河南町の中で人が動けない、動かない、人が来ない、そういう街はもうダメである。そういう意味からも公共交通は必要があるのだということの一つしっかりとらまえていかないといけない。
- ・自動車の運転技術は障害があれば自動的に止まるところまで技術はあがってきており、次を考えると、自動運転することができる時代が来るだろう。買い物も宅配システムがかなり進んでおり、電話1本、パソコン1つで注文ができ、バス需要に買い物を大きく見込まなくていいのではないか。
 - 今のITを使ったその進歩部分を否定することはないが、それだけでいいのかなということがまた議論となる。時間軸をどれぐらいに見るかということも考えてないと、このへんは現実的なものから出発し、今のような話と将来のところをどうみるかということ、両方合わせないといけない。
- ・路線バスの利用者がかなり減ってきており、背景として少子高齢化であろう。買い物も、今はパソコンで注文でき、すごく便利であるが、全ての方にそれが出来るかといえは、そうはいかない。町のコミュニティを考えたときに、バスも無いし、外出しなくてもいいかなとなったときに、その地域のコミュニティはどうなるのか。いろんな人と話す機会も減ったり、健康面からも考えた意味の中でも、公共交通を使うのも、一つ良いのではないのかと思う。
- ・大宝地区で実施したアンケートでは、「少し買い物・通院・公共施設に行くことについて、やまなみバスが少し便利のようなことになれば、乗りますか乗りませんか」の結果、利用しますが約5割の回答があった。

- ・住宅団地以外の地域が、なぜある一定のモビリティを確保しているかと言うと、お墓があったり、親が一人になってしまったから、あるいは定年になったから、田んぼがある方が帰ってくる。それなりの帰ってくる必然性もあれば、魅力もある。ではそれが住宅団地にあるのかということになると、これから作る必要がある。
- ・さくら坂も出来て20年の住宅地ですが、子どもが大きくなって出て行って、帰ってこようという意識にいかない。それはなぜかと言うと、まち自体に魅力が無いから。買い物をする店が無い、交通が不便。その地区の交通も入れて、まち自体を回っていくような仕組みづくりをしていかななくてはならない。

■ さくら坂・鈴美台での調査結果について（速報）

- ・実験バスを一度走らせたが、高齢者の人口から見ても、利用者は多い方なのかなと思う。また通勤・通学者数を考えてバスを利用されている人が少ないことが見えてきた。
- ・公共交通を使うという意識がもう住民には低くなってきていて、マイカーを使ってなんとかしようという動きになってきているのかと評価している。
- ・どういう時間帯で走っていれば車から公共交通に乗り換えるのか考えていく必要がある。まず、マイカー依存の住民の意識の向上が重要である。

■ その他

- ・デマンド交通は経費やコストがかかるということは、その人のために仕立てる交通になり、高くなるのは仕方なく、予算との兼ね合いを見て検討する必要がある。

■ ニュース『人・交通・まちづくり』について

- ・町で作っていただいた「人・交通・まちづくり」ニュースは、非常にいいと思う。続けていっていただけたらと思う。

【次回検討会議日程予定】

- ・平成26年3月18日（火曜日）午後1時30分から（予定）